

平成 29 年度第 1 回 帯広市行財政改革推進市民委員会 議事要旨

日時：平成 29 年 8 月 24 日（木）午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分

場所：帯広市役所 10 階 第 5B 会議室

■ 出席委員

梅田委員、大野委員、仙北谷委員、竹鼻委員、田中委員、坪委員、本田委員、山崎委員

■ 事務局

総務部行政推進室（廣瀬室長、松原主幹、中橋副主任、和田主任補、守山主任補）

■ 次第

第 1 開会

第 2 議事

1 帯広市行財政運営ビジョン平成 28 年度実施計画の推進状況について

第 3 閉会

■ 議事要旨

1 開会

【事務局】本日は、委員 10 名中、8 名の委員が出席し、過半数に達しているので、帯広市行財政改革推進市民委員会設置要綱第 7 条第 2 項により、会議が成立していることを報告する。

次に、本日の会議資料については、事前にお届けしている。ご確認願いたい。

これから、議事進行は、委員長にお願いする。

2 議事

（1）帯広市行財政運営ビジョン平成 28 年度実施計画の推進状況について（協議）

【委員長】今日は、市から「帯広市行財政運営ビジョン平成 28 年度実施計画の推進状況について」について説明を受け、協議をしたい。

はじめに、行財政運営ビジョン実施計画の検証方法や、この会議での協議の進め方などについて、事務局から説明願う。

（事務局から、資料 1 により、検証方法や協議の進め方について説明）

【委員長】市で作成した報告書（素案）について、記載事項と、報告書自体が市民の目から見て分かりやすく記載されているかについて、委員の意見をいただくということだと思う。

ただいまの説明について、ご質問やご意見等があればいただきたい。

（質問、意見等なし）

【委員長】なければ、市がまとめた平成 28 年度実施計画の推進状況や検証結果について、説明を受け、各委員から、ご意見をいただきたい。事務局から説明願う。

（事務局から、資料 2 により、平成 28 年度実施計画の推進状況・検証結果について説明）

【委員長】これから、委員に資料2についてご議論いただくことになるが、いただいた意見の要点を13ページに記載することになる。

大きく分けて、5つの項目に分かれているが、どこの項目でも結構なので、率直な意見をお願いしたい。

【委員】資料を拝見したが、良く検証されている。ただ、いくつか意見を述べたい。

空家対策について、市で積極的に考えてほしい。他の自治体の例を参考に、空家をどのように使いこなすかが重要だと思う。

もう1点、安心・便利・快適といった住みやすさの観点から、災害対策について、述べたい。安心ができないから、住めないといった声も聞く。災害対策について、物流面の問題などもあり、警察、自衛隊などと連携しながら、検証をしっかり行い、啓蒙を行ってほしい。

【委員長】1つ目の空家対策は、ビジョンのどこの部分に関連するのかといった問題はあるが、どこかという、市民協働の部分に関連するのかなと思う。

2つ目の災害対策は、昨年度の反省を踏まえて、PDCAサイクルの中で、どのように改善したのかというのは、大変重要な問題だと思う。

これらについて、市として考えは持っているか。

【事務局】空家対策は、昨年度に計画を策定して、今年度から運用を開始している。

空家はそのままにしておくと、危険性の問題がある。空家をどのように使っていくのか、あるいは、壊して土地を再利用するのかななどを様々な視点で考えている。

災害対策は、昨年度もこの時期に台風災害があった。台風災害があるとすれば、この時期と認識している。現在、計画やマニュアル策定に取り組んでおり、計画はほぼできている。今こういうものだというものをお見せできる段階ではないが、町内会との連携や、昨年度実際に避難所で対応した職員の体験などを踏まえて、内部でしっかり検証しながら、計画等を固める作業を行っている。

【委員】空家対策は、コンパクトシティの観点も必要だと思う。

災害対策は、30年、40年前の災害について経験がある職員が少なくなっており、ノウハウが伝承されていないのが、1つの問題だと思う。

【事務局】空家対策は、人口減少時代に入って、コンパクトシティの視点が必要だということはそのとおりだと考えている。計画に基づいて取り組んでいきたい。

災害対策は、当時の災害を知っている職員がまだ一部在籍しているので、当時の経験を聞いて今後の対策に反映させていきたい。

【委員長】災害対策は、先ほどの事務局の説明によれば、台風被害があるとすればこの時期との認識である一方で、今見せられる状況になっていないとのことであった。この時期よりも早く計画なり指針なりを策定して、万が一の災害に向けて準備をしておくことが重要であり、対応として少し遅いのかなという印象を受けた。

空家対策は、全国的に、何十年も前に登記され、そのまま塩漬けになっていて、今の本当の所有者が分からないといった現象が起きているという報道を見た。帯広市では、そういったことはあるのか。

【事務局】詳細は把握していないが、帯広市は比較的、入り組んだ土地も少なく、新しい家が多いことから、他の自治体と比べれば、少ないと考えている。ただ、危険な空家があるというのは事実

で、担当課で市全域を調査し、危険空家をピックアップして、対応をしている。

【 委 員 】 商店街の空家を有効活用できないか。

市で、中心街の活性化の視点から、市民が空家を有効活用できるアイデアを考えてほしい。

【 事 務 局 】 商店街の活性化について、市の関わり方は、市が直接携わる方法、コーディネーター役となる方法など、様々な方法があると考えており、いただいたご意見を参考とさせていただきたい。

【 委 員 】 「市民協働のまちづくりの推進に関する取り組み」に関して、「実施項目 2 番 幅広い市民のまちづくり活動への参加の促進」の検証結果について、質問したい。

「地域担い手育成講座」の参加者に対して行ったアンケート結果について、もう少し詳しく書いてもらえると分かりやすいと思う。いろんな講座で同じ方が参加し、同じ方がアンケートに答えている可能性もある。回数、参加者数、参加者の内訳などが記載されるといいと思う。

【 委 員 長 】 「地域担い手育成講座」はどういったものか。

【 委 員 】 どなたでも参加できるが、参加者は町内会役員の方などが多いのかと思う。そうすると、いろいろな場所に同じ方が参加しているのかもしれない。

【 委 員 】 同じような方が、同じようなグループで集まって、同じような意見を出しているという可能性があるというのは、おっしゃるとおりだと思う。一般の市民は、行政に近づくこと自体に勇気が必要で、事業に参加するハードルを高く感じているように思う。また、行政の職員も、積極的に参加してほしいという雰囲気が足りない。

もう一点は、「実施項目 6 番 市政への市民意見の聴取の推進」に関して、意見を述べたい。市長の地区懇談会への参加者が少ないように思う。

広報での市長のコラムなどは分かりやすく面白いが、地区懇談会などのやり方が硬くなっている。帯広市の職員の中に、パフォーマンスができる職員はいないか。他の自治体で、空家対策、町内会の推進など身近な課題について、落語調で説明を行っていた事例があつて、そういうやり方だと人が集まる。

空家対策は、短期移住に利用することで観光対策にも繋がるもので、他の自治体では成果が出ている事例もある。交流人口を増やすことは、視点として重要である。

【 委 員 長 】 職員のパフォーマンスについては、市民意見を出しやすい工夫の話だと理解した。

「パブリックコメント 1 件あたりの意見件数」も微妙な変化をしており、これを増やす取り組みの一つだと思う。

【 委 員 】 文書で提出とか、市長と直接話すとなると、意見は集まりにくいので、工夫が必要だと思う。

【 委 員 長 】 PDCA サイクルで、改善するためという話だと理解した。市では、SNS などを使った取り組みなどを行っているようだが、市民が意見を出しやすい改善について、どう考えているか。

【 事 務 局 】 市が苦手な分野の話であつて、職員のパフォーマンスについては、そもそも発想としてなかった。

【 委 員 】 災害の研修会で、話が上手な職員がいた。

【事務局】地区懇談会は、私も出席したが、確かに説明が硬い印象は受けた。

ただ、昨年度、地区懇談会のやり方を少し変えて、市の職員がパワーポイントで説明する場面を設けて、スライドの内容に工夫をするなど、市なりの工夫はしている。

また、成果目標を欲張った部分があり目標を達成しなかったが、昨年度同様4桁には到達しており、いただいたご意見を参考に、担当課と相談しながら、対応していきたい。

空家対策に関連した移住体験については、帯広市でも、「ちょっと暮らし」という事業を行っているが、事業自体を広く伝えられていないのかもしれない。

【委員】ビジョンの中に入っていないが、今日1番言いたかったのは、子どもの問題をもっと行政として積極的に取り組んでもらいたいということである。例えば、貧困、児童虐待、学用品の支給などの問題である。

また、教育、医療の問題も行政として、真剣に考えてほしい。医療費は高いし、給食費も高い。夏休み、冬休みなどで元教師の方が子どもに教えてあげる仕組みがあってもいい。

行政として、子どもの問題について、もっと手を差し伸べてほしい。

【委員長】ビジョンは、総合計画の一部に特化して作成されたものであって、今のご意見は、直接ビジョンには記載されていない。子どもの問題は、総合計画の中で記載されていて、市では取り組んでいるのだと思う。

行財政改革の面から、市での考えはあるか。

【事務局】人口を増やす、あるいは、維持するには、子どもを育てやすい環境を整えて子どもを増やすことは重要な問題だと認識している。

委員長のお話にもあったとおりビジョン自体には記載はないものの、市の全体の施策としては、取り組んでいるが、実感がないということは取り組みが足りない部分があると思うので、いただいたご意見を参考とさせていただきたい。

【委員長】その他、委員から意見をお願いしたい。

【委員】まず、報告書の記載については、読みやすさだけを求めるわけではないものの、前半は、記号や写真が入っていて読みやすいが、後半は字が多く読みづらい印象を受けた。

次に、「実施項目5番 効果的な情報提供の推進」に関して、広報紙配布率の問題だが、実績が年々下がっている中、目標が年々上がっている。インターネットが普及している中で、100パーセントを目指すことが本当にどこまでいいのかという印象を受けた。インターネットで見ても、紙を持って帰らない方もいる中で、目標を100パーセントにするのは疑問がある。

次に、ごみの有料化が始まってから一定期間経っているが、ごみの分別についての情報を定期的に配布してほしい。また、インターネットで検索機能があるのもっと便利だと思う。具体的には、物の名前を入力すると、ごみの種別が出るような仕組みである。

【委員長】1つ目は、報告書の見やすさの話だが、後半は確かに字が多くて、読みにくい印象がある。

これは、フォントも関係するのかなと思う。後半は、全てゴシック体になっていて、インパクトが強すぎる印象がある。見出しはゴシック体で、本文は明朝体を使うなどして、メリハリをつけるデザインとしてもいいかもしれない。その他、広報紙配布率の目標値の設定や、ごみ分別の部分で、市としての考えはあるか。

【事務局】まず、報告書の体裁については、平成25年度以降、同じ様式を使っているが、後半部分は、読みづらい部分があるかもしれない。フォントの部分も含めて、来年度からになるかもしれない。

いが、検討したい。

広報紙配布率の目標値の設定は、総合計画の指標の1つとなっており、ビジョンではこれを踏襲して、目標を設定している。総合計画策定時は100パーセントを目標としていたが、今は、情報発信の仕方や受け取る側の変化がある。目標自体は100パーセントとするが、広報紙に限らない情報発信の仕方も重視していきたい。

ごみ分別の検索は、他の自治体で行われている事例を把握しており、こうした事例を参考にしながら、検討させていただきたい。

【委員長】フォントの部分は、今年度からできないか。

【事務局】フォントの部分は、今年度から読みやすい形に改善したい。

【委員長】その他、委員から意見をお願いしたい。

【委員】空地の草が気になっていて、行政として、指導をしてほしい。

次に、災害対策だが、私は町内会で役員をしているが、自分達で防災訓練をすることを考えている。防災対策について、市では計画などの策定が完成していないようだが、急いで取り組んでほしい。

【委員長】これらについて、市としてはどうか。

【事務局】まず、草刈の関係は、市有地は行っている。民間地の場合、難しい部分もあるが、少なくとも市民の皆様が不快に思われる所は、できる範囲で指導などの対応をしていきたい。

次に、災害対策の関係は、計画策定が遅くなったものの、ほぼ完成の段階にある。順次作業を進めているところで、いただいたご意見は担当課へ伝えたい。

【委員長】その他、委員から意見をお願いしたい。

【委員】資料の見せ方として分かりやすいのは、A4 1枚で簡単に書くことだと思う。報告書の性質などもあると思うが、報告書は、一般市民には読みづらい部分があるかもしれない。

フードバレーとかち構想などは評価している。

行革の関係では、まず、防災について述べたい。

「住みやすいまち」にするには、災害に強いことが重要である。

高台、帯広でいうと自衛隊のほうに逃げる時に、車で逃げたら、渋滞することになる。こうした際の交通規制を考えたほうがいいと思う。

私は、東北大震災の時に、ボランティアに行った経験がある。過去から教訓を得るというのが重要で、帯広市でも職員を積極的に派遣してはどうかと思う。

次に、広報の関係では、市民は広報紙を見てくれないのが現状ではないかと思う。SNSという手段もあるが、高齢者はSNSを見ない。いろいろな手段を使って、市民に興味を持ってもらうことが重要である。

次に、貧困の関係では、正職員を増やして、所得を増やすことが重要だと思う。

年々、全国から、十勝の注目度が上がっていると思う。市職員が頑張ることと、ある意味では市民の皆さんも市に協力的にやっていって、市と市民の共同体を作ることが重要である。

【委員長】ただ今の意見について、市で考えがあればお願いしたい。

【事務局】いろいろなご意見をいただいた。「住みやすいまち」にすることが、人口増加などに繋がっていくものと認識している。

【委員長】その他、委員から意見をお願いしたい。

【委員】何点か意見を述べたい。

まず、指定管理者制度について、市は、地元企業を育成するという目的があるはずなのに、地元企業ではない企業が指定管理者となるのは、納得できない部分がある。また、利用者サービス向上という目的と、管理費を低く抑えたいという目的は、二律背反的な部分があると思う。次に、広告収入の関係は、とかちプラザの広告についてはどうなのかなと思う。

【委員】広告収入の関係は、封筒については、広告がぎっしり記載されていて、もらった封筒を再利用しようとしても、自分の名前を記入する余白がない。広告収入をもらっていても、ここまでぎっしり広告を記載しなくてもいいと思う。

【委員】クライアントは、大きく広告を出してほしいので、仕方がない部分があると思う。

【委員】デザインは、カッコいいものにしてほしい。

【委員】指定管理者制度が始まってから一定期間が経過したが、指定管理者制度導入の成果が分からない。一定期間経ったのだから、検証が必要だと思う。例えば、指定管理者制度導入によって、市の職員がどれだけ減ったかなどの検証である。

【委員長】「実施項目 16 番 指定管理者制度の運用」は、取り組みの実績が「○」で、取り組みの成果が「未達成」となっている。

サービスの向上と経費縮減をどう行っていくのが問題だと思う。成果指標は「利用者アンケートで評価が向上した施設の割合」としているが達成できていないので、厳しい結果に見える。市としては、どのように考えているのか。

【委員】市との契約の関係などで仕方がない部分があると思うが、指定管理者制度を導入すると、利用者に対する管理が厳しい印象を受ける。この辺が成果指標を達成できていない原因のようにも感じる。

【委員】指定管理者制度の指定期間は、当初3年間だったが、今は5年間になっていると思う。これが10年間になると、市の施設に指定管理者制度を導入しているのか、指定管理者の施設なのか分からなくなるように感じる。

【委員長】利用者の評価が低いことについて、市としてはどのように考えているのか。

【事務局】指定管理者制度を導入している施設の多くは、以前は管理委託をしていた施設である。管理委託は市の仕様書どおりに委託してもらった仕組みだったが、指定管理者制度は仕様書どおりの管理に加えて、サービスの部分を含めて包括的に施設を管理してもらっている。

モニタリングなどを通じて、施設管理の状況を把握している。管理委託していた頃よりは、サービスは上がっていると考えているが、市民の皆様からすると、もっと上を目指すべきというのが数字に現れているのだと思う。

【委員長】時系列で数字を出してもらったほうがいいかもしれない。

【事務局】指定管理者制度導入に伴ってどのように変わったのかという検証は、難しい部分がある。昨年度、多くの施設が指定期間を終えた際に検証を行ったが、施設の利用率が上がっている施設もあれば、下がっている施設もある。これが、指定管理者制度導入による影響なのかどうかは検証しづらい。

市職員数は、10数年前に1,800人程度いた職員が、現在は1,300人台になっており、市職員が減っているのは間違いない。ただ、これに代わって、非常勤の職員が増えている事実もある。これは、指定管理者導入だけが要因ではなく、他にも、業務委託したこととか、民営化したことなどの様々な要因から、市職員数が減っている。こうしたことから、指定管理者制度に限って、成果を出すのは難しいと考えている。

次に、成果指標のアンケートの件だが、自縄自縛のような成果指標にしてしまっている。例えば、昨年度90パーセントの利用者が満足していると回答した施設で、今年度が89パーセントの利用者が満足していると回答した場合、目標の「利用者アンケートで評価が向上した施設の割合70パーセント」については、満足度が89パーセントと高率であるにもかかわらず、目標達成に貢献しないことになってしまう。つまり、評価が高い所で推移しても評価が向上し続けなければいけない目標設定になっている。現実としては、評価が高い所で安定している施設がかなりある。利用者満足度が50パーセントということではないことはご留意願いたい。

【委員長】「広域行政の推進」移行の項目について、まだ意見が出されていないが、意見があればお願いしたい。

【委員】「広域行政の推進」では、結果として目に見えているのは、消防の広域化で、おおむね順調にいったんと思っています。

【委員長】広域行政は、消防に限らず、十勝定住自立圏に基づき、様々な取り組みを行っている認識している。

【委員】ごみの問題や水道など様々な取り組みを行っていると思う。

【委員長】広域行政は、上手くいっているという方と、実感を感じないという方がいるように思う。

【委員】町村では、消防の出動が遅れることはないか。

【事務局】消防には、本部と消防署の2つがある。本部が事務的なことを行い、消防署が実動部隊で、火を消したり、救急車で駆けつけるなどの機能を担っている。このうち、広域化は、本部を広域化・共通化して、事務的な経費削減を図るものである。

一方、消防署は、今までどおりそれぞれの自治体に存在する。また、自治体間の境目のエリアでは、より近いところから、駆けつけることができるようになったメリットがある。こうしたことから、広域化によって、出動が遅れることはないと考えている。

【委員】広域化で考えるポイントとして、大きな施設を作って広域で運用することと、小さい施設を各自治体で運用することのどちらが効率的なのかということだと思う。

【委員長】1か所でやるほうが効率がいいのだろうが、運搬に要する経費などをトータルで考えるべき問題かと思う。市では、ものによってそれぞれ考えているのだろうと思う。

【事務局】今まさに、くりりんセンター建替えについて、炉の問題など様々な問題を総合的に考えながら、検討し始めている。

【委員長】「行政サービスの充実」に関して、意見があればお願いしたい。

【委員】実感としては、窓口対応は、非常に良くなったと思う。

【委員】個人情報の関係で、マイナンバー等を扱う窓口で、臨時職員が対応しているのは疑問を感じている。

【事務局】個人情報は、採用した際に、はじめに研修をしている。また、正職員でも臨時職員でも同じ法律が適用され、守秘義務が課されるし、臨時職員にはそのことも伝えている。ご心配の部分もあると思うが、ルールを守りながら、様々なマンパワーを活用しているので、ご理解をいただきたい。

【委員】先ほど、私が窓口対応を褒めたことは、しっかり伝えてほしい。そうすることで、職員は、やる気が出る。

【委員】市職員は、挨拶をしないし、事務的な印象がある。

【委員】是非窓口に行ってみてほしい。対応が変わっていると感じると思う。

【委員長】「行政事務の適正な執行」に関しては、先ほど、災害対策を中心に意見をいただき、「その他」に関しては、空家対策、住みやすさ、貧困対策などの意見をいただいた。
全体を通して、委員から意見があればお願いしたい。

【委員】「行政事務の適正な執行」に関して、2026年に、札幌市等が冬季オリンピックの開催を誘致する話がある。
帯広市は、スピードスケート場に関して、キャパシティの問題等があるが、積極的に検討してほしい。

【委員長】他になれば、協議はこの程度としたい。それでは、今後のスケジュールについて、事務局から説明願う。

(事務局から、資料1により、今後のスケジュールについて説明)

【委員長】ただいまの説明を含めて、全体について、ご質問やご意見等があればいただきたい。

(質問、意見等なし)

【委員長】別になれば、本日の委員会は終了する。

(午後8時30分終了)